

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都市山科区御陵大津畑町	階数	地上6F
建設地	京都府京都市山科区御陵大津畑町	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、第一種住居地域、準	平均居住人員	69 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2013年7月1日
敷地面積	949 m <sup>2</sup>	作成者	(株)日企設計 松嶋 明子
建築面積	501 m <sup>2</sup>	確認日	2013年7月1日
延床面積	2,263 m <sup>2</sup>	確認者	(株)日企設計 林 友紀



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.6

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.1

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	茶と白を基調とし、京都の街並みと調和する配色、デザインの建物とする事をはじめ、建物内外の於いて様々な配慮を施す事によって、建物内外の人間、周辺環境にとって良好な建物となる事を目指した。	
その他	0	
Q1 室内環境	建築基準法規制対象外となる建築材料(告示対象外の建材及びJIS・JAS規格のF☆☆☆☆)をほぼ全面的に採用し、住居の居室に於いて、自然換気可能な窓を十分に設ける事によって、室内の健全な空気環境の維持に努めた。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	躯体材料(品確法に於いて等級3を満足)及び空調・給排水配管の観点から建物の耐用年数の長期化を図り、また主に給排水・衛生及び通信・情報設備の観点から、災害や事故が起こった際の建物に於ける機能維持、信頼性の向上に努	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	当該計画地は「町並み型建造物修景地区」内にあり、必要な届出が行われ、市街地の町並みと調和する色彩を施す等、良好な街並み、景観の創出に努める事とする。	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	屋上階に太陽光パネル(自然エネルギー利用量: 86.2kJ/年・m <sup>2</sup> )を設置する事によって、電力設備に代わる自然エネルギーの変換を利用した新たな発電システムを構築し、環境に配慮するものとする。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	持続可能な森林から算出された木材の内、京都府内の地域産木材を内装下地材に部分的に使用する事によって、資源の保存に努める事とする。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を一般的な建物以下とする事によって、敷地外周辺のみならず更に広範囲に於いて地球温暖化対策を図るものとする。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される